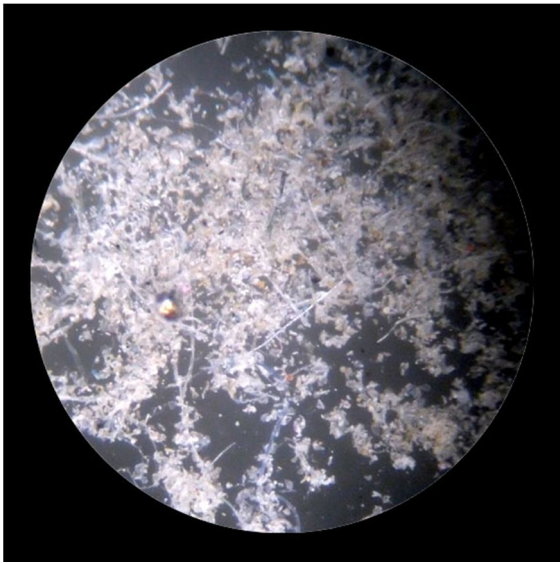


「エアコンフィルターに学ぶ(4)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

エアコンのフィルターに集まったほこりは、全体的には白っぽい色をしている。掃除機のパックに集まったゴミと、見た目は似ている。顕微鏡の光源装置(LED)をOFFにして、反射光だけで見ると、実際の色に近く、白っぽく見える。



掃除機とちがうところは、エアコンのフィルターの場合、空気中に浮遊する物体だけを集めている点である。前述のように、鉱物の結晶、花粉、衣服の繊維などが圧倒的に多い。しかし時には、意外なものが発見されることもある。



5年生は1クラスが28~29人なので、基本的には1人1台の顕微鏡を使わせている。しかし、この時は1台の顕微鏡に、子どもたちが殺到して、何やら歓声をあげている。何を発見したのだろうか？



歓声の正体はこれだった。何かの植物の一部、恐らく種子か果実表面の刺(とげ)だろう。大きさは1mm以上あったので、これが長時間空中を浮遊していたとは考えにくい。



もっとはっきりした形状のものも見つかった。これは植物の果実の一部(鞘のようなもの)だろう。

エアコンフィルターのほこりは、普通は厄介者扱いされる。しかし、立派な学習材になることがわかってきた。6年の環境関連の学習でも使えるだろう。

【子どものノートから】

「エアコンフィルターのほこりの研究は、すごくおもしろかったです。全部わたみたいなのほこりだと思っていたら、花粉や種みたいのもあって、おどろきました。楽しい研究でした」

「エアコンが集めたほこりに、種子が混ざっていた。これも、誰かの服についていたヤツが、飛びちって、まざったのだと思う。要するに、部屋の空気は人間がよごしていることになる。」